



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

富山県防災士会会報

第7号

平成25年11月25日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-5173-7430
(事務局：黒畑)

富山市公募提案型協働事業《中間報告》

3地区で市民防災意識調査を実施

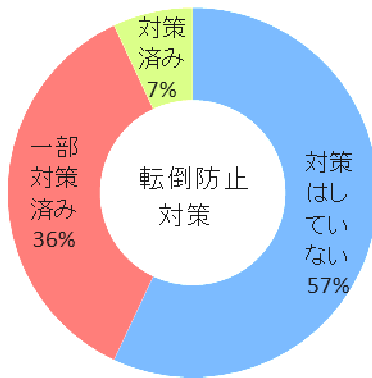
引き続き小学校での防災教育に取り組む

今年度、富山県防災士会は富山市公募提案型協働事業に応募し「災害に強いまちづくり」を提案してきました。

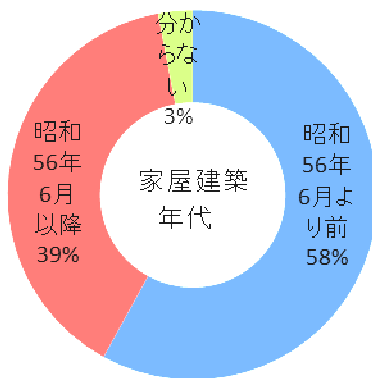
「富山県には災害が少ない」、「地震が少ない」と言った考えが広く浸透し、耐震診断・耐震改修や家具転倒防止対策が進んでいないのが現状です。万が一の災害に備え、我が身と家族を守る安全・安心な環境づくりが何より大切なことであり、各家庭が地震対策の出発点として家具転倒防止対策に取り組むように働きかけることをこの事業目的としています。

この事業を進めるにあたり、富山市内3地区自主防災会(850世帯)を選び、防災講座を通して一層の防災意識の向上を図り、まずは3地区全世帯に市民防災意識調査を実施。非常時持ち出し品、非常食の備蓄や家具の転倒防止対策の実施状況、耐震診断・耐震改修状況等々を把握しました。その一部を以下に挙げます。

◆ **転倒防止対策**に関する設問で、**A地区**では「対策済み」が7%、「一部対策している」36%、「対策していない」が57%でした。「対策をしていない」理由として最も多いものは「面倒だから」が37%、「私には出来ない」が15%という地区がありました。また、対策をしない理由の中に「富山県は地震が少ないから」「災害は起こらないと思うから」「しても無駄だから」という回答も見られました。



◆ **家屋建築年代**に関する設問で、**B地区**では58%が昭和56年6月以前の建物で、新耐震基準の適用となった56年6月以降の建物は39%に過ぎず、耐震診断の実施率も僅か3%で、改修に至っては皆無でした。

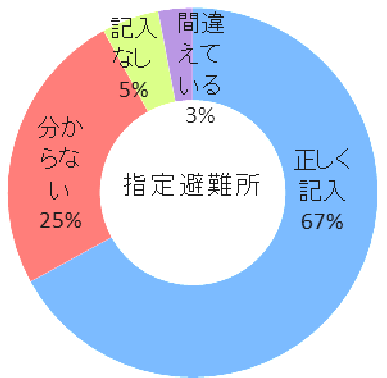
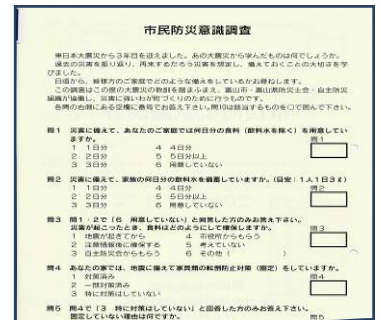


◆ **避難所**について正しく認識されているかどうかに関する設問で、**C地区**では正しく記入されていたのは67%で、

「分からない」「記入なし」「間違えている」を合わせ33%にのぼっていることもわかりました。

富山市から配布されている防災マップ等を通して正しい避難所の周知徹底が望まれます。

◆ **意識調査結果**については3町内全世帯に配布し、「市民防災意識調査結果」の説明会と「転倒防止対策の実際について」分かりやすく



解説し、各家庭における今後の対策について具体的な提案をしました。



若竹町公民館で家具の固定方法について話す山下防災士

また、3つの自主防災会それぞれの一般的な傾向や特徴と市民からの要望事項から今後の自主防災会が取り組む課題としては、例えば転倒防止対策では「自分には出来ない」と言った高齢者への援助など具体的な対策

を立てるように提案しました。

◆ **更には、自主防災会校区の小学校5年生を対象に防災教室を実施**し、児童が自分の命を守るための行動が出来るよう意識を高め、親子で防災について一緒に考え、地域と協働して各家庭の家具転倒防止対策実施を目指しています。

なお、年明けの1月には同地区に対して2回目の簡単な防災意識調査を予定しています。

安全・安心なまち、災害のないまちに住むことは万人共通の願いですが、各家庭・各地域がそれぞれ対策に取り組まなければ決して災害に強いまちづくりは実現できません。富山県防災士会では関係機関と協働し、草の根活動として災害に強いまちづくりを県下に広めたい。

なお、この事業は富山市建設部防災対策課との協働事業としておこなっています。

(小杉記)

NPO法人日本防災士会 北信越連絡協議会設立

11月16日（土）金沢市消防局会議室において、NPO法人日本防災士会・北信越連絡協議会設立総会が開催されました。

設立総会は、衆議院議員 馳 浩氏をはじめ、石川県会議議員である中村 勲氏、同議員谷内 律夫氏を来賓に迎え盛大に行われました。

本連絡協議会設立までの経緯を簡単に記すと、平成20年2月には富山県において防災士の連携を深めるべく新潟県、石川県、富山県の3支部が初めて顔を合わせ、情報交換会を行ったことに始まります。

その後、各県持ち回りで年に1～2度集まり、各県の取り組みや諸問題について情報交換を行ってきました。

平成25年2月には富山県広域消防防災センターにおいて情報交換会を開催し、この席上、富山県から連絡協議会設立準備委員会の立ち上げについて提案があり、満場一致で了承されました。これを受けて同年5月には石川県にて北信越連絡協議会設立準備委員会を開催し、設立に向けた細部要領を検討してきました。

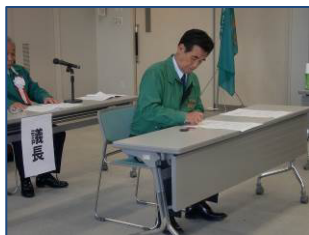
こうして6年余りに及ぶ経緯を経て設立され、全国で7番目の連絡協議会となりました。

本連絡協議会は「自助」「共助」の原則のもと、構成支部間のネットワークを構築し、地域防災に関する活動と必要なスキルアップ向上を支援することを目的とし、石川県、福井県、新潟県、富山県が順次1年毎に持ち回ります。

会が正式に発足するのは来年4月1日です。（山下記）



開会挨拶をする
土田石川県支部長



協定書に調印する
小杉富山県支部長

4支部による包括的連携協定書の内容は下記の通り。

「日本防災士会会員の活動理念」を具現化、地域社会貢献をさらに鮮明にし、会員並びに北信越各支部の活動強化を図ります。

- 1 力を合わせ、多彩な地域社会貢献活動
- 2 災害が発生した場合、行政や地域の要請に基づき活動し情報の提供（共有）
- 3 被災者のニーズに添える質の高い知識、技能の習得
- 4 各支部の中核会員を目指す研修会を開催
- 5 その他支部相互に連携協力を行うことが必要と認める事項を遂行

平成25年度富山県総合防災訓練 県内各地の防災訓練でも防災啓発を図る

8月25日（日）高岡テクノドームをメイン会場に射水市施設を含む8会場で富山県総合防災訓練が実施されました。同日、砺波市総合防災訓練も庄川4地区で実施されました。この日、総勢28名の防災士が参加しました。



富山県総合防災訓練
射水市本江会場



高岡市テクノドーム会場

富山県防災士会からは、「家具の転倒防止」「災害状況」「活断層」などのパネル展示や「新聞紙を使ったスリッパ、コップ作り」「家具転倒防止模型」による実演、「防災アンケート」「防災クイズ」等を通して啓発活動を各会場で行いました。このほか、

9月28日（日） 富山市総合防災訓練

10月6日（日） 小矢部市総合防災訓練

10月27日（日） 朝日町総合防災訓練

が実施され、それぞれに参加しました。

今年度、初めて小矢部市及び朝日町からの参加要請を受け、朝日町では地域防災計画に掲げられている「住みよいまち“あさひ”みんなで守る、備える、支えあう」の実現を図るため「より実践的な訓練に取り組む事」を目的としたもので、わが防災士会もこれを受けて「自助～自ら備える減災対策」をテーマとして参加しました。



富山市総合防災訓練



小矢部市総合防災訓練



朝日総合防災訓練

小矢部市では、総合防災訓練前の9月2日（月）小矢部市の呼びかけにより、小矢部市在住の防災士の意見交換会が行われ、防災訓練当日はそれぞれ防災士同士の絆を深めつつ、有意義な訓練参加となりました。



平成25年度 第1回例会 特別警報について学ぶ



奥 清治氏

7月21日（日）平成25年度第1回例会を「サンシップとやま」で開催しました。今回は、富山地方気象台次長の奥 清治氏を迎え、今年8月30日開始の「特別警報」について講演して頂きました。災害発生の危険性を判りやすく国民等に確実に伝達

し、重大な災害に対応するための対策「特別警報」という新たな基準を設定したこと、「警報」と「特別警報」の違い、「特別警報」が発令された場合の留意点などの解説がありました。最後に「自らを守るため日頃から住民の訓練が重要であり、今後防災士の役割が大きい」と締めくくられました。

その後、富山エクセル東急ホテルで会員相互の情報交換と懇親を深めました。

平成25年度 第2回例会 原子力災害について学ぶ



恒吉邦秋氏

9月21日（土）富山県広域消防防災センター研修室において、富山県防災士会会員25名が参加して、富山県防災・危機管理課原子力防災対策主幹の恒吉邦秋氏を講師に迎え、原子力災害についての勉強会を開催しました。放射線の基礎についての

詳細説明と現在改訂作業中の富山県地域防災計画（原子力災害編）の概要を説明して頂きました。

念願の防災施設見学会を開催 常願寺川流域の防災・治水施設見学

今回の施設見学会は、10月3日（木）19名（参加枠限定）の参加者があり、常願寺川流域で行われました。

常願寺川は世界でも有数の急勾配河川であり、しかも上流域には崩壊しやすい立山カルデラを控えていることで知られています。

安政5年（1858年）の跡津川断層帯を震源とする飛越大地震による土砂災害や、現在も行われている砂防事業の大切さを確認する趣旨の開催でしたが、予定していた立山カルデラ内の砂防現場



立山カルデラ砂防博物館前で
今井館長（前列左端）と一緒に

は前日の天候不良で中止となり、中・下流域のみの施設見学となりました。

立山カルデラ砂防博物館では、今井館長から歓迎の特別講演があり、砂防事業の重要性を実感しました。その他、



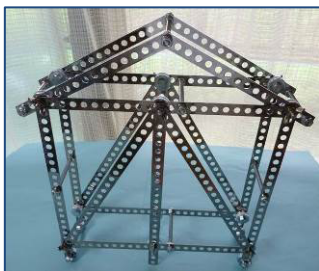
大森の大転石と水神様

防災・利水施設である横江頭首工や富山防災センター（水橋）でも、現地職員の皆さんから施設の説明を受ける等、大変お世話になりました。途中、立山博物館「遥望館」では、かつての立山信仰のこ

ころを疑似体験するなど、普段と違った有意義な見学会でした。尚、富山県ではこの立山カルデラの防災遺産を世界文化遺産に登録する取組みをおこなっています。

（黒畑記）

■防災出前講座用教材の紹介■ 本防災士会が保有している、村崎防災士手作りの出前講座用教材を3点紹介します。動かして見せることができる教材なので、出前講座や小学校での防災教室等で使うと効果的です。



家屋の耐震補強模型（筋交いの効果）



地震時電源自動遮断装置



家具の転倒防止模型・可動式

人生初めての大雨特別警報・ 避難勧告等を体験して

防災士(射水市) 石黒 猛



西長江本町での出前講座で、
体験談を話す石黒防災士

9月15日～16日にかけて台風状況は認識していたが、家族の希望もあり丹後半島(京丹後市)に旅行へ出かけた。

15日午前中に自家用車で自宅を出発、福井県敦賀ICを経て、舞鶴につく頃は暗く、雨も強くなってきて、丹後半島の海岸線

は山からの鉄砲水で道路の一部が冠水している箇所があったが無事宿泊先に到着した。

9月16日早朝、緊急速報「エリアメール」にて「大雨特別警報発表、5時05分京都府全域に大雨特別警報が発表されました。これまでに経験したことのないような大雨になるところがあります。最大級の警戒をしてください。京都府」。この時点で旅行を取りやめ、自宅に帰ることを決意。

この時、再度「エリアメール」を受信。「9月16日7時13分 避難勧告発令、大雨特別警報が発令され、宮津市全域の全世帯に対して避難勧告を発令しました。指定避難所を開設しましたので、安全を確保した上で避難してください。宮津市」

この避難勧告を受けて、宿泊先で海岸線の通行止めの状況を確認した。海岸線の一部は通行規制されていたが幸いにも冠水はなく、通行できた。

丹後半島から宮津市を経て舞鶴に向かおうと178号線を進んでいくと天橋立から北側地内で川の水位が高く通行止めになっていた。そこで係員の説明を受け高速道路は基準降水量を超えているため通行止めであること、東側への迂回ルートがないこと、基準降水量を下回れば高速道路の通行止めは解除されるので高速の方が早く開通することがわかった。そこで宮津市で待機し高速道路の開通を待った。この間、警察署や土木事務所、宮津駅などで情報を得て通常のルートでは帰宅できないことがわかった。

15時半頃、高速道路の通行止めが解除されたので宮津天橋立ICより京都縦貫道路に乗った。途中由良川が氾濫し、川幅約1kmにわたり堤防沿いの家の1階部分が浸水し、道路が無い状況が見えた。川は濁流の状態、身体が震える恐怖を感じた。

漸く北陸道に入り、自宅に戻ったのは17日朝5時30分であった。

体験を踏まえ、①台風の進路や台風に伴う降水量は予想を超えることがある。②大雨特別警報が発令された時点でその近辺で発生しそうな災害を予測する。③情報がとれるようにスマホなどを持つ。④車での移動は計画を立て、安全な高速道路を優先する。等の教訓を得た旅であった。

抱負

地域の女性防災士として

防災士(小矢部市) 松 保子



松防災士

昨年11月、私は居住地区自治会長の薦めで防災士の講習を受け、資格を取得しました。消防士の主人は以前より県防災士会に入会しており、夫婦揃っての防災士となりました。嫁ぎ先の義父も若いころから消防団の活動に熱心な人で、その影響からか主人は消防士の道を選び、今こうして家族で防災に関心を持っています。

一昨年3月、友人が被災した東日本大震災をきっかけに、被災していない私にできることは何かを考え始めました。今後、もし自分が被災したときに、何一つあの震災の教訓を生かせないとしたら、同じ日本に住む大人として恥ずかしいと。そんなときに防災士の話が舞い込んできたのです。

わが子の行事や仕事優先で、防災士としての活動はまだまだこれからですが、県防災士会の皆様のご指導をいただきながらできることから始め、地域を守る女性防災士として有事に働ける力を身につけていきたいと思いません。

親子で学ぶ防災教室

荻生防災士が熱演

7月21日(日)四季防災館において小学校2年生から6年生までの児童26名と保護者13名が参加して「親子で学ぶ防災教室」が開かれました。

荻生防災士は「地震はどうして起きるか」「地震が起きたらどうするか」を手振り、身振りで熱演。また「長岡の奇跡」、「釜石の奇跡」、「ジョエルマの奇跡」について感情を込めて話されました。

最後に小学校5年生で学ぶ「100年後のふるさとを守る」というテーマで、「稲むらの火」の紙芝居を熱演。児童、保護者ともに熱心に聴き入り、参加者は防災、減災の重要性を認識しました。



荻生防災士の話に聴き入る児童

《編集後記》

今年度最も遅く発生した台風30号はフィリピンを襲い、日本からも緊急援助隊を派遣するなど、相当の被害が出ました。その原因といわれるものが「段波」といわれています。初めて聞く言葉です。研究してみませんか。(山下記)

